

平成20年(ワ)第21666号 損害賠償等請求事件
 原告 株式会社新銀行東京
 被告 横山 剛

証 拠 説 明 書

平成20年11月4日

東京地方裁判所民事第16部合議係 御中

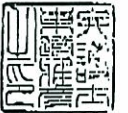
原告訴訟代理人弁護士

渡 邊 弘 志



同

東 道 雅 彦



同

柴 慶 子



証拠番号	証拠の標目	原本・写しの別	作成者	立証趣旨
甲1	履歴事項全部証明書	原本	東京法務局港出張所・登記官・五十嵐均	原告の主たる事業等
甲2	平成14年12月1日付「履歴書」	写し	被告	被告の経歴等
甲3	被告の職務履歴	写し	原告	被告の原告における職務履歴等
甲4	平成19年9月28日付「退職願」	写し	被告	被告が、平成19年9月28日、原告に対し退職願を提出し、同年10月31日付で退職した事実等

証拠 番号	証拠の標目	原本・写 しの別	作成者	立証趣旨
甲5	平成17年4月1日 付「誓約書」	原本	被告	被告が原告に対して負担する機密保持義務 等の内容等
甲6の 1	平成20年6月8日 放送のテレビ朝日 「サンデープロジ ェクト」を録画した ビデオテープ	原本	録画対象：テレ ビ朝日「サンデ ープロジェクト」 録画日時：平成 20年6月8日午 前10時から 録画場所：原告	被告が機密資料返還義務等に違反した事実 等
甲6の 2	平成20年6月8日 放送のテレビ朝日 「サンデープロジ ェクト」を録画した DVD	原本	録画対象：テレ ビ朝日「サンデ ープロジェクト」 録画日時：平成 20年6月8日午 前10時から 録画場所：原告	被告が機密保持義務等に違反した事実等
甲7	「週刊現代」平成 20年6月28日号の 記事	写し	講談社	被告が機密保持義務等に違反した事実等
甲8	「週刊現代」平成 20年7月12日号の 記事	写し	講談社	被告が機密保持義務等に違反した事実等
甲9	「週刊朝日」平成 20年7月18日号 の記事	写し	朝日新聞出版	被告が機密保持義務等に違反した事実等

(注) 本書面においては、訴状において用いた略称をそのまま使用している。

以 上

履歴事項全部証明書

東京都新宿区西新宿一丁目21番1号
 株式会社新銀行東京
 会社法人等番号 0111-01-049857

商号	株式会社新銀行東京
本店	東京都新宿区西新宿一丁目21番1号
公告をする方法	当社の公告方法は、電子公告とする。 http://www.sgt.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、フジサンケイビジネスアイに掲載して行う。
会社成立の年月日	平成11年4月5日
目的	①預金又は定期積金の受入れ、資金の貸付又は手形の割引並びに為替取引 ②債務の保証又は手形の引受けその他前号の銀行業務に付随する業務 ③国債、地方債、政府保証債その他の有価証券に係る引受け、募集又は売出しの取扱い、私募の取扱い、売買その他の業務 ④信託業務 ⑤前各号の業務のほか銀行法、担保附社債信託法、社債等登録法その他の法律により銀行又は信託会社が営むことのできる業務 ⑥その他前各号の業務に付帯又は関連する事項
発行可能株式総数	4000万株
発行済株式の総数並びに種類及び数	発行済株式の総数 792万6207株 普通株式 592万6207株 A種優先株式 200万株
株券を発行する旨の定め	当社は、株式に係わる株券を発行する。
資本金の額	金806億9307万円

発行可能種類株式 総数及び発行する 各種類の株式の内 容	<p>普通株式 3800万株 A種優先株式 200万株 ただし、株式の消却が行われた場合には、これに相当する株式の数を減ずる。 A種優先株式 (優先配当金)</p> <p>1. 当社は、定款に定める剰余金の配当については、優先株式を有する株主(以下において「優先株主」という。)又は優先株式の登録質権者(以下において「優先登録質権者」という。)に対し、普通株式を有する株主(以下において「普通株主」という。)又は普通株式の登録質権者(以下において「普通登録質権者」という。)に先立ち、1株につき年600円の剰余金の配当(以下において「優先配当金」という。)を行う。ただし、当該事業年度において定款に定める優先中間配当金の全部又は一部を支払ったときは、その額を控除した額とする。</p> <p>2. ある事業年度において、優先株主又は優先登録質権者に対して優先配当金の全部又は一部を支払わないときは、その不足額は翌事業年度以降に累積しない。</p> <p>3. 優先株主又は優先登録質権者に対しては、優先配当金を超えて剰余金の配当を行わない。 (優先中間配当金)</p> <p>当社は、定款に定める中間配当については、優先株主又は優先登録質権者に対し、普通株主又は普通登録質権者に先立ち、前記(優先配当金)の項の本文で定める額の2分の1の金銭による剰余金の配当(以下において「優先中間配当金」という。)を行う。 (残余財産の分配)</p> <p>1. 当社は、残余財産の分配については、優先株主又は優先登録質権者に対し、普通株主又は普通登録質権者に先立ち、1株につき20,000円の金銭を支払う。</p> <p>2. 優先株主又は優先登録質権者に対しては、前項のほか残余財産の分配を行わない。 (議決権) 優先株主は、株主総会において議決権を有しない。</p>								
株式の譲渡制限に関する規定	当会社の株式を譲渡するには、取締役会の承認を要する。								
役員に関する事項	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="587 1491 1145 1615">取締役 石川達紘 (社外取締役)</td> <td data-bbox="1161 1491 1497 1615">平成20年 6月30日重任</td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 1626 1145 1749">取締役 梶原徳二 (社外取締役)</td> <td data-bbox="1161 1626 1497 1749">平成20年 6月30日重任</td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 1760 1145 1883">取締役 村田守弘 (社外取締役)</td> <td data-bbox="1161 1760 1497 1883">平成20年 6月30日重任</td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 1895 1145 2007">取締役 大塚俊郎 (社外取締役)</td> <td data-bbox="1161 1895 1497 2007">平成20年 6月30日重任</td> </tr> </table>	取締役 石川達紘 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任	取締役 梶原徳二 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任	取締役 村田守弘 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任	取締役 大塚俊郎 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任
取締役 石川達紘 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任								
取締役 梶原徳二 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任								
取締役 村田守弘 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任								
取締役 大塚俊郎 (社外取締役)	平成20年 6月30日重任								

東京都新宿区西新宿一丁目21番1号
株式会社新銀行東京
会社法人等番号 0111-01-049857

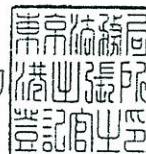
これは登記簿に記録されている閉鎖されていない事項の全部であることを証明
した書面である。

(東京法務局新宿出張所管轄)

平成20年 7月25日

東京法務局港出張所
登記官

五十嵐均



整理番号 ネ010708

* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

5 / 5

横山 剛の職務履歴

2004年10月1日	入社 総合企画部門 企画グループ 企画ユニット配属
2005年1月1日	コーポレート部門 経営企画G (組織変更)
2005年4月1日	コーポレート部門 管理Gへ異動
2006年1月1日	コーポレート部門 人事・総務G (組織変更)
2007年4月16日	営業推進グループ 営業店ユニット 池袋出張所へ異動
2007年5月14日	傷病欠勤開始
2007年7月1日	休職開始
2007年10月31日	退職

退職願

私儀

このたび一身上の都合により、来たる、二〇〇七年十月三十一日をもって退職致したくここに
お願い申し上げます。

二〇〇七年九月二十八日

横山 剛



株式会社新銀行東京

代表執行役 森田 徹 殿

誓約書

平成17年4月1日

株式会社 新銀行東京 御中

氏名 植 川 剛

住所 東京都品川区東五反田

〒114-8501

私は、貴社の業務を遂行するにあたり、貴社が有する機密の保持に關し以下の事項を遵守することをここに誓約致します。

第1条 (定義)

1. 機密情報とは、私が貴社における業務を遂行するにあたり知り得る一切の情報(有形、無形、書面又は口頭によるかを問わない。)であつて、以下の各号を含むがこれらに限られないものとする。

- (1) 個人情報、知的財産情報
 - (2) 経営情報、営業情報、財務情報、システム情報、その他これに類する情報
 - (3) 前1号、及び2号以外の情報であつて、貴社又は私が機密情報として指定したもの
2. 機密資料とは、機密情報が記録された文書、コンピュータデータ、又はテープ、電子メールおよびその他の媒体、その他一切の記録媒体であつて、形態の如何を問われないものとする。
3. 以下のいずれかに該当することを私が貴社に対して証明した情報については機密情報として取り扱われなければならないものとする。

- (1) 貴社より開示を受けた時点で既に公知の情報
- (2) 貴社より開示を受けた時点で既に私が所有していた情報
- (3) 正当な権利を有する第三者から私が機密保持の義務を負うことなく合法的に入手した情報
- (4) 貴社より開示を受けた後に、私の責によらず公知又は公用となつた情報
- (5) 貴社の機密情報を利用することなく私が独自に取得した情報
- (6) 法令により開示することが私が義務付けられた情報

第2条 (使用目的)

私は、在職中および退職後を問わず、貴社の機密情報を私が随時担当する貴社の業務を遂行するためにのみ利用することができ、この使用目的以外には利用しません。また、私は、貴社に不利益又は損害をもたらすおそれのあることに關連して、機密情報を利用しません。

第3条 (機密保持)

1. 私は、在職中および退職後を問わず、機密情報を機密に保持するものとし、第三者に開示又は漏洩しません。
2. 私は、在職中および退職後を問わず、貴社より情報の開示を受けた事実、またその存在の有無を第三者に開示又は漏洩しません。

第4条 (機密資料の返却等)

1. 私は、第2条で定める使用目的が終了した場合、又は貴社より返還の請求がある場合には、貴社の指示に従い機密資料を貴社に返却若しくは破壊するものとします。
2. 私は、退職の際、機密資料すべてを貴社の指示に従い速やかに返却若しくは破壊するものとし、その後一切の機密資料を保持しません。

第5条 (保管)

1. 私は、業務上明示の指示がある場合を除き、貴社より開示された機密資料の複製を一切作らず、徹重に保管します。また、他の資料との混在をさけて収納し、必ず施錠して保管します。
2. 私は、貴社より開示された機密資料を貴社より指定された作業場所のみで使用し、それ以外の場所に持ち出してこれを使用しません。

第6条 (報告)

私は、貴社より要請があつた場合、速やかに機密資料の使用、保管状況について報告します。

第7条 (入退館等)

1. 貴社が定めた入退館管理規程を遵守します。
2. 貴社より緊急の場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、業務上事前承諾いただいた場合以外に残業・休日出勤その他の目的による貴社への入館は行いません。

第8条 (対象期間)

本誓約書は、貴社在職中の期間、及び退職後も有効とします。

第9条 (損害賠償等)

私が、自らの責に帰すべき事由により上記の各項に違反した場合、貴社の指示に従い当該違反行為を是正し、貴社の被つた損害を賠償します。また、私が上記各項に違反した場合には、懲戒処分等の対象となり得ることを十分に理解いたしました。

第10条 (協議解決)

本誓約書に定めのない事項、又は本誓約書の解釈に疑義を生じた事項については、私は貴社と誠意を持って協議のうえこれを解決するものとします。

以上

平成20年6月8日 放送 テレビ朝日「サニティ」のロケを録画した

ビデオテープ

秋葉原通り魔の弟が独占手記「歪んだ愛情
 地方の時代大特集わが故郷を語る／江原啓之新連載開
 エド・はるみにブーイング〜!なぜ／ペ・ヨンジュン語る事業、政治、結

週刊現代

Weekly Current / 2008 June

定価350円

6/28

松下奈緒
鎌田奈津

タタ! 露天風呂へGO

Z24-19
 50(24)(2480)
 2008.6.28

国立国会
 20.06.17
 図書館

1200800659954

秋葉原通り魔の弟の告白

独占前篇

地方分権の時代にわが故郷を語る
 44歳 皇太子との孤独
 48歳 雅子さまの孤独
 田中直紀子
 致傷の惨劇
 交井慎平

元行員が 実名告発



新銀行を退職した横山氏(上)。外資系の金融機関から転職してきた



新銀行東京を蝕んだ 政治家紹介案件と 石原知事秘書の名前

オリンピック招致などに
浮かっている場合が!

「石原(慎太郎)都知事(75歳)や新銀行の津島隆一・代表執行役(59歳)は『経営悪化の責任は旧経営陣にある』としていますが、それは事実とは異なります。

もちろん旧経営陣の責任も重大ですが、都の新銀行設立本部長として経営に深く関わっていた津島氏ら幹部、そして石原知事の責任はそれ以上に重い。それを指摘するために、事実を

述べることにしました」
いまや東京都のお荷物になった『新銀行東京』。このデータメ経営の責任について告発するのは、昨年10月まで同行に籍を置いていた横山剛氏(39歳)だ。

開業の半年前にあたる2005年10月に新銀行東京に入行し、経営企画部に配属されていた横山氏は、経営の中核を垣間見るポジシ

ョンにいた。その横山氏の目には、初代の代表執行役・仁司泰正氏ら旧経営陣ばかりに責任を押しつける東京都と石原知事の姿勢は奇異に映るといふ。

新銀行には当初1000億円、さらには経営不振を理由に400億円、都合1400億円の都民の血税が投入された。しかし経営悪化の原因究明のために設けた「調査委員会」の手によ

る報告書はいまも「概要」しか明かされていない。石原知事がほめかした旧経営陣に対する訴追すら行われる様子はない。結局、経営悪化の原因は解明されず、責任追及もウヤムヤのままだ。

横山氏の告発に戻ろう。「入行して配属された経営企画部には当時、一つの命題が課せられていました。都が作成した経営指針『マ

スタープラン』にどれだけ経営の実績を近づけられるか、というのがそれです」
マスタープランとは、再選を目指し03年の知事選に出馬した石原氏の公約、中小企業に生きた資金を提供するための新銀行設立を具体化するためにまとめられたもの。そこでは開業3期目の目標として、「地銀中位行並の1兆6000億円の総資産」「54億円の経

血税1400億円はこうしてドブに捨てられた!

常利益」(決算書を基に融資の判断をする)ポトフオリオ型・無担保融資で2800億円の融資残高などが謳われ、石原知事の直筆署名も入っている。

「マスタープランの目標はハードルが高すぎました。だから銀行の経営陣は、独自に現実的な数字を積み上げて経営計画を作成していたのです。しかし、この経営計画とマスタープランとの乖離を埋めるよう、津島さんらが厳命したのです。」

「私もマスタープランを策定したのが当時、都の出納長室理事だった津島さんなのです。その後、新銀行設立本部長となった津島さんは、『事業計画書の数字では都議会に説明が付かない』、『3日で融資の可否が判断できなければ、東京都に苦情が寄せられることになる』、『マスタープランで述べたものと異なる融資形態であっても、マスタープランの変則的な形だと示さないといけない』などと、かなり強い口調で仁司氏らの尻を叩いたのです」(横山氏)

石原知事は、「マスタープランはモデルカー。どう運転するかは経営者の才覚だ」と都側の責任を否定した。だが、横山氏の証言を聞けば、開業直前まで経営のイニシアティブを握っていたのが津島氏ら都の幹部であることは明白だ。

そして05年4月に新銀行は開業した。それ以降の経営陣は、計画通りに進まぬ経営実態を目の当たりにしながらも、改革の手を打たぬまま、数字の辻褃合わせに腐心していた。しかし、まともな審査能力もないのに無担保・無保証融資を売り物にしてきたため、融資の焦げ付きは増える一方だった。

今年6月2日に発表された08年3月期決算では、167億円の最終赤字、不良債権比率が12・7%と前期の2倍に膨らんだ。津島氏は、「融資対象である顧客



津島氏を任せる「責任追及」の主犯である津島氏に「責任追及」するのは茶番だ

の経営実態の見極めが非常に甘かった」と、仁司氏ら旧経営陣を強烈に批判した。しかし、そもそもマスタープランで中小企業への過大な貸出総額をブチ上げたのは津島氏らだ。旧経営陣はその数字に縛られながらのハンドリングを余儀なくされた。その事実を知りながら、自らの責任には一

切触れず、いまでは再建役として経営トップに座っている津島氏の態度には呆れるほかない。

「口利きは当たり前前」

さらに新銀行の経営を歪めたのが、都議会議員による融資の口利きだ。「コンプライアンス部門の議事録には、『政治家の紹

介による融資案件の増加が懸念材料」といった主旨の記述がありました」(横山氏)

今年3月、都議の口利きについて記者会見で問われた石原知事は「口利きは当たり前前」として、こううそぶいた。

「議員ですからね。自分の選挙区の困っている中小企業者から、せっかく無担保で貸してくれる銀行ができただから、ぜひ取り次いでくれて(頼まれれば)、議員の責任でするのが当然だね。その(融資の)先に会社もつたか、もつてないかは別の話ですよ」

そもそも、新銀行東京は資本金の大半を都民の税金で賄われた公的色彩の強い銀行だ。民間の銀行と同列に論じるのは無理がある。

それでも、石原知事は自ら口利き融資を否定できない立場にないことを知っていたのだから、こうした発言をしたのかもしれない。

横山氏が続ける。「行内の一部では、石原知事の秘書の名をつけて、『〇

〇案件』や『××案件』という言葉が使われていました。知事側近による口利き融資がなされていた証拠です。」

コンプライアンス委員会で、担当の執行役が「〇〇〇〇案件が多いんだよなあ」なんてこぼしているのを耳にしたこともありませう」

開いた口が塞がらないのはこのことだ。中小企業救済のための銀行に、知事周辺や都議、都庁幹部が旨い汁を求めて群がった。400億円の追加出資はすでになされたが、果たして新銀行は再建できるのか。

「私は廃業すべきだと思います。『整理するとなればよりカネがかかる』と石原知事は言っていますが、公表されている数字を見ても、追加出資の400億円とその後減資で経営が再建できるとはとても思えません。整理した上で、責任の所在をハッキリさせるべきです」(横山氏)

本当に責任を取るべきは誰なのか。石原知事は、よく知っているはずだ。

独走秋葉原通り魔の弟日記 | 事件後の冢原
 人最低ベンチ裏 / 石原銀行が証拠を隠滅 / 小栗旬(秘)写
 先輩の犯罪的「鬼畜AV」過去 / ゆうこりんの恋人社長が初激

週刊現代

Weekly Gendai / 2008 July

定価350円

12



特写!
米倉涼子

小田あさ美
橘麗美

必食!
涼麵
大特集

独走スクープ 加藤家は事件後どう生きているのか
通り魔の煉獄日記
 交際「破局」、不動産「虚業」から「整形」「暴力団」まで
 小倉優子の恋人社長「すべての疑惑に答える」
 先輩「鬼畜AV」過去

Z24-19
 50(26)(2482)
 2008.7.12

国立国会
 20.07.01
 図書館



「UFJ検査
妨害事件」に
匹敵する
一大不祥事

次々に社風な実態が
明らかになる。新銀行
東京。その新たな
姿を本誌は照らした。同
行内部でデタラメ経営
の真実を「血税隠滅」
したというのである

青木理

東京都が1000億円も
の巨費を投じながら、20
05年の開業からわずか3
年で破綻状態に陥った「新
銀行東京」。石原慎太郎知
事（75歳）のトップダウン
で設立が強行された同行の
累積赤字はすでに1016
億円に上る。東京都は先に

金融庁も重大関心！ 新銀行東京に 証拠隠滅 疑惑

血税1400億円
呑み込んだ
デタラメ経営の
実態が闇に……

400億円の追加出資を決
定し、近く赤字分に相当す
る減資を実施する予定だ。
つまり当初出資の1000
億円はほぼ全額が失われて
しまったことになる。言う
までもなく、すべて血税だ。
「石原銀行」とも「慎
銀行」とも称される通り、

新銀行東京が石原知事の存
在なくしてあり得なかった
ことに疑問を差し挟む人は
いないだろう。だが石原知
事が2003年の再選出馬
時に公約の柱に掲げた新銀
行構想をめぐっては、当初
からその意義と見通しに懐
疑の声が絶えなかった。都

庁幹部ですらこう言って溜
め息をつく。
「新銀行は石原知事の思い
つきと独断でスタートした
が、都庁内でも当初から『う
まくいくはずがない』とい
う懸念のほうが強かった。
既存の金融機関が二の足を
踏むような中小企業に、都

主導の銀行が無担保・無保
証でカネを貸すなんて無茶
に過ぎるってね。しかし、
新銀行構想をブチ上げて再
選を果した当時の石原人
気は圧倒的で、ほとんどの
メディアも知事を持ち上げ
ていた。都庁内も独裁的な
知事に苦言を呈することの

新銀行本店（右）。石原
知事から移転したリス
トラ



石原都知事よもう責任逃れはできない!

できるようなムードはな
く、知事のお気に入りだつ
た一部の幹部たちが中心と
なって無謀な経営計画を策
定し、経営陣に押し付けた。
結局、石原知事の思いつき
と道楽のために1000億
円もの税金をドブに捨てた
ようなものだ」

にもかかわらず、肝心の
石原知事はまるで新銀行の
旧経営陣に全責任があつた
かのような言動を繰り返す
ばかり。経営悪化の原因究
明のため設けられた新銀行
の「調査委員会」報告書は、
いまもわずか9ページの
「概要版」しか公表されて
いない。

その新銀行東京をめぐる
当面の最大焦点は、5月に
スタートした金融庁による
検査結果だ。公共性の高い
金融機関の適正運営や業務
の健全性を確保するため、
銀行法に基づいて実施され
る金融庁検査は、恐らく9
月10月ごろまでには結果が
明らかとなる。新銀行東京
に対する初の検査によって
杜撰な融資実態がさらに炙
り出され、不良債権額が大

命令などの行政処分が出さ
れる事態となれば、東京都
と同行が強弁する再建計画
にも甚大な影響が出かねな
い。

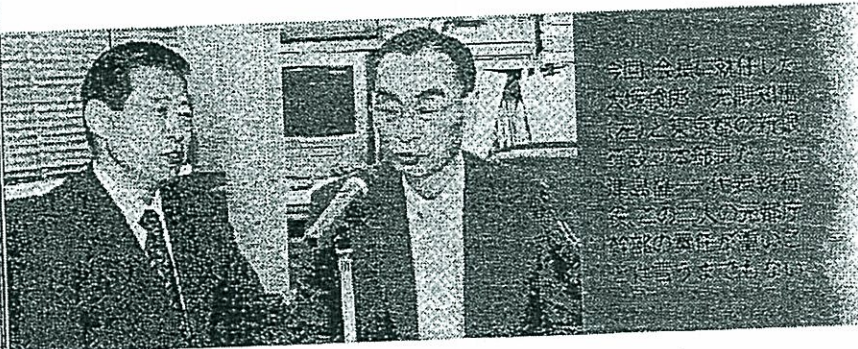
ただし、一方でこの金融
庁検査が東京都による40
0億円の追加出資を待つか
のように着手されたことも
あって、「新銀行東京が根
本から揺らぐような厳しい
検査結果にはしないだろ
う」(金融専門家)との見方
も根強い。

400億円の追加出資前に書類破棄の指示

ところが、ここに来て耳
を疑うような情報が新銀行
周辺で流れ始めている。新
銀行東京の現状を知る都庁
中枢の関係者が匿名を条件
に打ち明ける。

「実は、新銀行の重要な内
部書類が大量に破棄されて
いた疑いが浮上しているの
です。書類破棄を指示した
のは石原知事の手足となっ
て新銀行設立を主導した都

都が新銀行に400億円の
追加出資を決定する直前、
つまり金融庁検査のしぼら
く前だと囁かれています」
銀行内部における重要書
類の破棄が事実とすれば、
金融機関として決して許さ
れざる行為であることは言
うまでもない。ましてそれ
が都幹部の指示によるもの
であり、金融庁検査を見据
えての行為だったとするな



検査妨害(移転遅延)とい
当し、都庁上層部を巻き込
んだ刑事事件に発展しかね
ない。

実際、99年には外資系の
クレディ・スイスグループ
が内部資料を破棄して金融
庁検査を妨害した罪で刑事
告発され、後に有罪が確定
している。03年には、当時
のUFJ銀行が金融庁検査
を前に大口融資先の経営状
況などを記した資料を隠蔽
していたことが発覚、東京
地検特捜部が元副頭取らを
逮捕・起訴したケースもあ
った。果たして新銀行東京
内部での「重要書類の破棄」
は事実なのか――。

あらためて概略を振り返
れば、破綻状態に陥った新
銀行東京への400億円追
加出資案を東京都議会が紛
糾の末に正式可決したのは
今年3月28日。その約1カ
月後の4月25日に金融庁は
新銀行東京への初検査に乗
り出すと通告し、5月16日
からは実際に立ち入り検査
をスタートさせている。今
度は金融庁に詳しい同庁関

「重要書類破棄」の情報を
掴んでいます。破棄された
のは問題融資先に関して新
銀行が独自に内部調査した
コンプライアンス(法令順
守)関連の資料で、不正を
疑われるような融資内容を
取りまとめたものだった可
能性が高いと聞いていま
す。ただ、破棄の時期は金
融庁検査の前ではなく、昨
年実施された日銀検査の直
前だったという話もありま
す」

新銀行幹部が自ら書類をシユレッツダーに

新銀行東京への日銀検査
が行われたのは、今回の金
融庁検査から遡ること約1
年前に当たる昨年2、3月
のことだ。金融庁が行政権
限として行う検査と異な
り、金融機関との契約に基
づく日銀検査には罰則がな
い。しかし、日銀検査前の
内部書類破棄が金融機関と
して重大な背信行為である



のは言うまでもなく、後述するように「400億円」という追加出資額はそもそも、日銀考査の結果も踏まえて算定されたとみられているのだ。

前出の金融庁関係者同様、「日銀考査の前に大量の内部書類が破棄された」と打ち明ける人物がもう一人いる。昨年10月まで新銀行東京に勤務していた横山剛氏(39歳)である。

新銀行東京の開業半年後にあたる05年10月に同行入りした横山氏は、経営企画部などに所属して新銀行東京の経営中枢を覗き見る立場にあった。すでに本誌(6月28日号)などでも新銀行のデータメな経営ぶりや杜撰極まる融資実態などを実名で告発している。その横山氏が明かす。

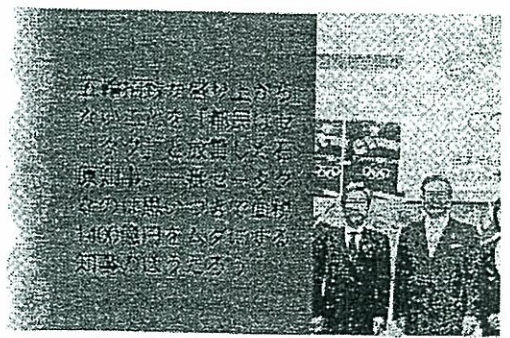
「破棄されたのは、やはりコンプライアンスに関する新銀行の内部資料でしょうね。実は私自身、実際に書類破棄の現場」としか思えないシーンを何度か目にしているのです」
横山氏は、昨年の日銀考

査の直前、新銀行東京で融資審査等を担当する幹部が自ら大量の書類をシュレッダーにかけている姿を目撃したという。

「書類をシュレッダーにかける作業など、本来は部下にやらせるもの。幹部が手ずから行うなんてありえず、実に異様な光景でした。また同じく日銀考査の直前、いつものように朝出社してシュレッダーのゴミを処分しようとした際、その異常な量に驚いたのを覚えています。いつもはシュレッダーのゴミは2袋程度だったのですが、この時は9袋くらいになっていましたから」(横山氏)

改竄されてもわからない 議事録

それだけではない。さらに、ある新銀行の元幹部がこんな話を明かす。「実は新銀行では取締役会などの議事録が廃棄されている可能性もあるのです。議事録の廃棄は商法違反で



すが、議事録に書かれた中身が世間にばれて背任に問われるよりはずっと刑罰は軽いですから」

この元幹部によると、普通、会社の取締役会議の議事録などは背をかかてひも綴じにする「和綴じ」が一般的だが、新銀行では紙束の背にのりをつけて表紙を貼り付ける形式だった。さらに、通常は議事録の最後のページに記名・捺印する欄を設けるのに、新銀行は、わざわざ別のページに改めて記名・捺印する様式だったという。

「途中のページが捨てられたり、改竄されたりした議事録であっても、最後にこ

の記名・捺印されたページを貼り付ければ、議事録の偽造が可能になるのです。当初、議事録をひも綴じにすべきと主張した幹部もいたのですが、当時の経営トップから「和綴じにするためには外部の会社に頼まなければならぬのでカネがかかる」などと反論され、実現しなかったのです」(元幹部)

新銀行周辺から次々と飛び出す「内部資料の破棄」をめぐる証言――。金融ジャーナリストの須田慎一郎氏が言う。

「金融庁の検査を妨害する目的で書類を破棄したとすれば刑事事件化は免れませんが、日銀考査前だったとしても金融機関として言語道断の行為です。都が追加出資した400億円は日銀考査の結果によって「健全経営」に最低限必要な額としてははじき出されたものとみられる上、今回の金融庁検査も日銀考査を踏まえつつ行われていきます。もし検査で重要書類破棄の事実が確認されれば問題は拡大し、

厳しい検査結果につながる可能性もあります。そもそも新銀行でこれほどデータメな経営とモラルハザードがはびこった責任は、無理な経営計画を強引に押し付けた都側にある。この際、金融庁は徹底した検査を実施し、新銀行の膿を出し切るべきでしょう」

須田氏の語る通り、1000億円を超える血税をドブに捨てる結果となった新銀行東京の闇と暗愚は、徹底して解明されねばならない。その際に忘れてはならないのは、杜撰とデータメが罷り通った銀行事業の「真の責任」がどこにあるのか、という点だろう。

思いつきと独断専行で新銀行という無謀な計画の号令をかけた石原知事。それにおもねって現実性のない経営計画を策定し、経営陣を煽り立てた都幹部――。途方もない規模の血税を無為に費やす事態を招いた両者の責が問われる契機にならないとすれば、金融庁の検査などに一片の意味もない。

取材協力・阿部崇(本誌記者)

喝！
凌辱！
恐喝！

人気
急騰

『鼠犯罪先 輩』の 過激なAV

天本木、GIROPP
ON'Sでシエロを抜
きオリコン演歌・歌謡
曲ランキング1位獲得。
あのへっぽっぽりたこの
……を引っぱり朝か
歌手は、はたして朝か
らワイドショーに生出
演する「顔」としてふさ
わしいのか

鼠犯罪が監督・出演し
た「兇畜系」などのア
ダルトビデオの効々

深夜の東京都内。古ぼけ
たマンションの一室で、若
い女性と数名の男たちが正
対している。重い沈黙がし
ばし続いた後、目を真っ赤
に泣き腫らした女性が、か
細い声を絞り出した。
「な……何したいんです
か」

怯えきった女性を前に、
薄ら笑いを浮かべた男たち
はこう応じた。

「エッチなことをしたいな
ど、思ってるんですよ」

さっと女性は身構える。
が、委細構わず男たちは畳
み掛けた。

「旦那さんは知ってるんで
すか？」

素晴らしいながら差し出さ
れた男の手には、この女性
が過去に女優として出演し
たアダルトビデオ作品が握
られていた。

男たちは、自分たちと「関
係」を結ばない場合、この
AV作品を近隣にばら撒く
と脅していたのである。

「私には家庭があります
し、主人にばれたら……。
(AV作品を)ばら撒かれた
ら困るんです」



市原悦子「家政婦は見た!」25年間の舞台裏

週刊朝日

朝日新聞社 7月18日号



始まった TBS
筑紫哲也の
「NEWS23」
「解体」

小泉孝太郎
「家でも不思議な人、
小泉純一郎」

離婚はだれでもできる
「妻との修復」
その極意

新銀行東京の「闇」
内部記録
が語る

石原フ
口利き

リー

18
08
円

第113巻第31号通巻1891号 第3種郵便物認可
2008年7月18日発行(毎週金曜日発行) 編集長・森田人 山口一臣 発行所 朝日新聞出版

〒104-8011 東京都中央区築地3-3-2
電話(03)5511-8767(編集部) (03)5540-7793(販売)

定価 320円
本体 305円

追及新銀行東京

内部記録は語る

知事

ファミリー



「口利き案件」

仲介・斡旋・紹介などをする——これを「口利き」という。累積赤字が1千億円以上に膨れ上がった新銀行東京。そこにはびこる「口利き融資」の実態を本誌は掴んだ。銀行の「内部記録」からは、石原慎太郎東京都知事(75)の「ファミリー」たちの名が次々と浮かぶ。つき込まれた都民の税金1400億円はどう使われたのか。

石原慎太郎・東京都知事は以前、新銀行東京の「焦げ付き融資」に関して「都議の口利き」があったのではないかと指摘され、こう言い放つたことがある。

「困っている中小企業から取り次いでくれと言われ、それは議員の責任で(口利き)するのは当然。その先は銀行側が判断する問題で、紹介した融資先が倒産しても議員の責任ではない」(3月21日の会見)

一面ではもつともな論理かもしれない。しかし、石原知事はご存じだったのだろうか、同行に対してさまざまな数の「口利き」があったことを、新銀行の元幹部はこう語る。

「新銀行が開業からわずか3年で経営危機を迎えるこ

とになった大きな原因の一つは、無担保無保証にもかかわらず、ずさんな審査で乱発した融資です。そして、当初から危惧されていたのが、「口利き」で無理やり集めた関係者からの紹介案件の焦げ付きだったのです」

実は新銀行内部には、こうした「口利き」案件にかかわる履歴などの「記録」が存在する。

「そうした記録は、一部の幹部がとりまとめてリストにしています。もつともそのリストは用途別にまとめ、数種類あったようです。その記録は05年4月の開業から数えて、ざっと700件にもものぼった。1千件あるとも聞いています。今年に入ってもあるようですから」(前出の元幹部)

そこに紹介者として登場するのは、都内選出の国会議員に都議、秘書、都庁幹部、さらには区議、元議員……100人以上。まさに都内の与党関係者らがこぞって「営業」していたわけだ。そして、なかでも注目すべきは、やはり石原知事周

辺者たちの存在だろう。こうした記録などをもとに本誌は独自に「石原ファミリー」がかかわったとされる計60件以上の案件を徹底取材した。(20、21頁の表)

内部記録などで名前が浮上したのは、8人。石原宏高衆院議員、兵藤茂、高井英樹の両都知事特別秘書、浜渦武生・元副知事、鈴木晶雅、田中豪の両都議、そして現在は新銀行の最高幹部におさまっている大塚俊郎・取締役会長と津島隆一・代表執行役である。

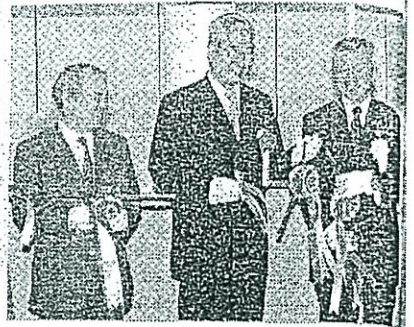
まずは、この8人について説明しておこう。石原知事の三男、宏高議員は言わずもなだが、それぞれが知事と親密な関係にある。兵藤特別秘書は、石原知

中小企業経営者のみなさん、融資申し込みの際は、新銀行東京ではなく、石原ファミリーへ。きっと熱心に対応してくれるでしょう——? 円内七から石原伸昇氏、宏高氏、大塚俊郎氏。右上は新銀行東京の本店

都議、秘書らの名が続々と

石原印の国会議員、

新銀行マスタープラン



石原



事の学生時代からのヨット仲間で、「石原六奉行」と呼ばれる側近中の側近である。石原知事が衆院議員を辞職した95年まで計15年間秘書を務め、00年9月に特別秘書に起用された。

浜渦元副知事（現・都参与）も「六奉行」の中心人物だ。石原知事が参院議員のころから秘書になり、99年、03年の都知事選では選対責任者として石原陣営を仕切った。00年に副知事就任後は、石原知事の懐刀として有名だ。

高井特別秘書は、石原知事の政策を支えるブレーン、「5人の参謀」の一人として知られる。石原知事の四男で画家の延啓氏と米国留学中に知り合い、92年から石原知事の秘書になった。

そして、鈴木都議（大田区）と田中都議（品川区）

も、石原知事の元秘書だ。

ともに区議から都議に打って出た際、「元秘書」の経歴を売り物にした。何よりも、大田区と品川区は宏高氏の選挙区だけに、そのつながりは推して知るべしだろう。

一方、新銀行の2人も関係は深い。元都副知事の大塚氏は、脚光を浴びた「銀行税（外形標準課税）」の発案者であり、04年に副知事に抜擢、新銀行についても設立準備段階から中核責任者となつてかかわった。

その大塚氏の腹心が津島氏で、新銀行設立本部の本部長として銀行側と会議を重ねてきた人物だ。その後、都港湾局長を経て、銀行の経営が傾いた07年11月に「社長」として送り込まれた。

兵藤特別秘書と鈴木都議の紹介とされる案件はそれぞれ20件以上と、突出している。さすがは顔役である。新銀行の元執行役の一人が、こう証言する。

「『口利き案件』と言っても、議員や知事の側近たちが直接電話してくるものもあれば、東京都産業労働局という部署を経由してくるものなど中身はいろいろでした。でも、実際の融資の審査で特別扱いは一切ありませんでしたよ。むしろ、融資を断る場合には電話を入れなきゃいけないなど、業務が余計に煩雑になった。実際、大変でしたよ」

「口利き」は日常茶飯事だったようだが、それでは具体的な事例を見てみよう。ある食品関連メーカーの社長がこう証言する。

「新銀行が開業したころのメガバンクはひどかった。たまたま知り合いが兵藤さんと非常に親しい人だったことがわかり、新銀行の話題で盛り上がり、そんなら紹介してもらおうということになった。さっそく都庁に呼ばれて、兵藤さんに会って話をつないでもらい、審査が通りました。一応、審査したんだと思いますよ。書類は出しましたから。で

05年の本店完成時のテープカット（右上）と今年3月10日にあった新銀行の会見（一番左が津島隆一氏）。左上は石原知事の署名入り「マスタープラン」

内部記録や本誌取材などによって
判明した「口利き、案件

融資年月	融資紹介者	融資依頼者(依頼企業の所在地)	融資の実行/不実行	紹介に成功する企業/不成功
2005年4月	石原宏高	品川区	×	×
2005年4月	兵藤 茂	中央区	○	×
2005年4月	兵藤 茂	台東区	—	—
2005年4月	兵藤 茂	大田区	×	×
2005年5月	鈴木晶雅	大田区	×	○
2005年5月	鈴木晶雅	大田区	—	—
2005年5月	鈴木晶雅	大田区	—	—
2005年5月	鈴木晶雅	大田区	—	—
2005年5月	高井英樹	千代田区	×	×
2005年6月	津島隆一	品川区	—	—
2005年6月	高井英樹	新宿区	—	—
2005年6月	津島隆一	千代田区	×	×
2005年6月	兵藤 茂	世田谷区	×	×
2005年7月	大塚俊郎	渋谷区	×	○
2005年7月	兵藤 茂	八王子市	○	×
2005年7月	兵藤 茂	渋谷区	—	—
2005年7月	鈴木晶雅	品川区	×	○
2005年7月	高井英樹	杉並区	○	×
2005年7月	鈴木晶雅	品川区	×	○
2005年7月	鈴木晶雅	目黒区	×	×
2005年8月	兵藤 茂	港区	—	—
2005年8月	鈴木晶雅	大田区	×	×
2005年8月	兵藤 茂	千代田区	○	○
2005年8月	兵藤 茂	台東区	○	○
2005年8月	兵藤 茂	江戸川区	—	—
2005年9月	鈴木晶雅	大田区	—	×
2005年9月	兵藤 茂	中野区	○	—
2005年12月	鈴木晶雅	大田区	—	×
2005年12月	浜渦武生	千代田区	×	○
2005年12月	鈴木晶雅	世田谷区	×	×
2005年12月	兵藤 茂	渋谷区	—	—
2005年12月	兵藤 茂	文京区	—	—

も訪問審査はなかったな」
中央区にある製造会社の社長が新銀行に融資を申し込んだのは、06年7月ごろのことだったという。
「そのころ、業績が上向き始めたので設備投資をしたかったのですが、債務超過だったために都市銀行などの審査が通りませんでした。そこで鈴木さんに新銀行の担当者を紹介してもらったのです。2千万円から3千万円の融資でしたが、おかげさまで通りましたよ」
ある物流企业も同年、新

銀行から数千万円の融資を受けた。その際、知人を通じて鈴木都議を紹介してもらい、銀行に話を通してもらったのだという。
「都のどなたかに話をつないでいただいたと思います。商習慣としてはごく当たり前の行動でしょう？ 中小企業経営者は、使える人脈はすべて使おうですよ。特に鈴木さんにお礼をしたわけでもなく、やましいことは一つもありません。融資が下りたときは鈴木さんの秘書に報告しましたよ」

いずれも比較的、融資がうまくいったケースだが、やはりとんでもない会社も存在した。
兵藤特別秘書の案件で、1千万円借りた記録のある企業は、登記上の住所はそのままで、所在がわからないようになっていた。そのとぼつちりを食ったのが、都内にある同名の会社だ。
「1年ほど前から(消えた企業の)取引先や顧客と思われる人たちから、電話が何度もかかってきます。社長もいなくなっちゃったみたいですね」(従業員)

たいですね」(従業員)
宏高議員が06年に、「口利き」をしたとされる企業も、その後の消息がつかめなくなっている。紹介企業の住所とされた都内のアパートの一室は、現在別人が入居し、大家によれば、その企業代表の男性は新銀行開業前の03年春、すでに退去していたというから、ワケがわからない。
「奥さんとお子さんと一緒に暮らしていましたが、他に従業員がいたようなふうではありませんでした。退去後に、銀行員のような方が何度か訪ねて来てました……」
返済状況は確認できないが、不良債権になっていないことを祈るばかりだ。
一方、「紹介」の経過をたどると、石原ファミリーの威光がきかなかったのか、それとも威光はもともと大したことはなかったのか、最終的に融資を断られたケースも少なくなかった。
ある製造業者は07年秋ごろ、知り合いだった兵藤特

別秘書から新銀行を紹介してもらったが、「とんでもない目にあつた」と言う。
「ものすごい量の審査書類を持って来いと言われて、2カ月半ほども待たされた揚げ句、『うちではダメなので、国民金融公庫に行ってください』と言われた。頭にきいたので、別の地元の信用金庫に行ったら、すぐに貸してくれました。すでに新銀行の経営が傾いていた時期だったからでしょうか。もちろん兵藤さんの預かり案件だということは伝わっていましたが、もう怒る気にもなりません」
甥には貸さない ちぐはぐな融資
世田谷区の食品販売会社の経営者も、これはイケると踏んで申し込んだ融資で、「肩すかし」を食らったという。
「昨年から昨年、『兵藤さんから紹介があるから』と融資を仲介してくれた友人がいたんです。そんな偉い人

「社長は石原知事の奥さんの妹の息子で、(知事の弟の)裕次郎さんなんかとも

が関与していたら、そりゃ融資は通ると思うでしょう? それで、もう話に通っていると思つて銀行に行つたら、『何しに来たんですか』つて。だから、こちらから『結構です』と言つて断つてやった。本当にどうしようもない、ふざけた銀行だなと思ひましたね」

実は、石原知事の親族が代表を務める中央区の企業も、融資を断られていた。



今年3月10日の会見で、深々と頭を下げた新銀行執行部

融資交付年月	融資紹介者	融資依頼者(依頼企業)の所在地	融資の実行/不実行	紹介に成功する企業側回答
2005年12月	兵藤 茂	中央区	—	—
2006年1月	鈴木晶雅	練馬区	—	—
2006年1月	兵藤 茂	渋谷区	—	—
2006年1月	津島隆一	新宿区	—	—
2006年2月	兵藤 茂	千代田区	×	○
2006年2月	浜渦武生	千代田区	○	○
2006年2月	鈴木晶雅	練馬区	—	—
2006年3月	田中 豪	品川区	—	—
2006年4月	石原宏高	中野区	—	—
2006年4月	田中 豪	文京区	—	—
2006年4月	兵藤 茂	中野区	○	○
2006年5月	兵藤 茂	港区	○	×
2006年6月	鈴木晶雅	杉並区	×	○
2006年6月	鈴木晶雅	品川区	—	—
2006年6月	兵藤 茂	板橋区	—	—
2006年6月	鈴木晶雅	練馬区	×	×
2006年6月	鈴木晶雅	目黒区	—	—
2006年7月	鈴木晶雅	世田谷区	○	○
2006年7月	大塚俊郎	宇都宮市	×	×
2006年7月	鈴木晶雅	中央区	○	○
2006年8月	兵藤 茂	台東区	—	—
2006年8月	兵藤 茂	港区	○	○
2006年9月	兵藤 茂	新宿区	—	—
2006年9月	兵藤 茂	品川区	—	—
2006年11月	兵藤 茂	八王子市	○	×
2006年11月	兵藤 茂	千代田区	—	—
2006年12月	兵藤 茂	港区	—	—
2006年12月	鈴木晶雅	大田区	—	—
2007年5月	兵藤 茂	八王子市	×	○
2007年7月	兵藤 茂	世田谷区	×	○
:				

—:取材拒否、不明

付き合ひがあつた。だから、石原さんの周辺から何度も頼んでもらいましたけどダメでした。『甥だから融資した』などと言われたくないという気持ちが働いたんじゃないか、と社長は言つてました(この企業の関係者)

一方、浜渦氏の「紹介案件」は、こんな具合だ。05年冬に融資を申し込んだ千代田区の不動産会社である。説明するのは、浜渦氏本人だ。

「この会社の社長は(参議院議員の)鴻池(祥肇)さんの後援会の幹部で、僕は以前、鴻池さんの秘書だったから知り合ひだったんです。新銀行ができてしばらくしたところ、社長に久しぶりに会つと、資金が必要だと言つた。だったら新銀行を使つてあげてよ、という話

になったんです。でも、もともと僕は銀行の設立自体に反対だったから、知人を通じてある審議役を紹介したんだけど、しばらくして『申し訳ないけれども断らせていただいた』と電話がありました。その後は知りません」

この会社はその数カ月後、自力で信用保証協会の保証を取り付け、最終的に新銀行から5千万円の融資を受けることになった。

不思議なことに、「口利不思議」の「記録」があるのに、当の企業側が紹介者を知らないケースもあつた。

宏高氏が「口利き」したとされる品川区の男性は、「新銀行には口座を持っていないが、融資を受けたことは一度もありませんよ。そもそも、私は石原知事が嫌いだもの……」

と狐につままれた様子。鈴木都議に「口利き」を頼んだとされる中央区のインターネットデザイン会社の社長は、こう語つた。

「鈴木さんつて、どなたで

すか? たしかに融資は受けていますけど、私どもは信用保証協会に依頼しています。誰かに紹介されたわけじゃありません」

ちぐはぐな融資実行に、当の企業側も知らない口利き記録……。真偽のほどはわからないが、これが新銀行の能力の限界なのか、それとも何らかの意図があるのか。

それはさておき、石原ファミリーがかかわつたとされる融資総額は、本誌の取材で判明しただけでも、5億円近くにもなる。巨額資金を投じた都のトップである石原知事と関係の深い人物たちが口利きしたとなれば、これまでの問題とはまた別の次元である。

実際、カネにかかわるケースもある。

鈴木都議の紹介で融資が実行されたという前出の社長はこう話す。

「10年ほど前から鈴木さんの後援会に入っています。後援会の年会費3万円も毎年納めていますし、何回か

新銀行東京をめぐる動き

99年 4月	石原氏が東京都知事に初当選。知事選公約に「東京スーパーリージョナルバンク」構想
00年 4月	大手銀行への「銀行税」施行
02年 2月	石原知事が新銀行検討を指示。出納長室に専門チーム
3月	銀行税訴訟で都が敗訴(東京地裁)
03年 1月	銀行税訴訟が高裁でも敗訴
4月	新銀行設立を公約に石原知事が再選
5月	会見で新銀行構想を発表
11月	都が1000億円を出資する基本スキーム発表
04年 2月	事業計画「マスタープラン」発表
4月	新銀行東京が発足(準備会社)
8月	新銀行設立本部設置(津島隆一本部長)
11月	「裏・事業計画書」作成
05年 4月	新銀行東京が営業開始
06年 6月	当期赤字209億円の初年度決算発表
11月	累積赤字456億円の中間決算発表
07年 4月	石原知事3選
6月	累積赤字849億円の3月期決算発表
7月	店外ATM約120台の完全撤去発表
11月	累積赤字936億円の中間決算発表
08年 2月	都に400億円増資要請
3月	400億円追加出資の議案が都議会本会議で可決
4月	第三者割当増資で都から400億円の払い込み
5月	千代田区の本店と立川市の支店を閉鎖し、最大10あった店舗は新宿の新店のみに金融庁が立ち入り検査開始
6月	当期赤字167億円、累積赤字1016億円の3月期決算発表 株主総会で資本金を1589億円から572億円に減資する案が可決、都が設立時に出資した1000億円のうち85億円の棄損が確定

パーティー券も買っています。1回につき1、2枚でしようか」

こうしたことが、融資の実行に結びついたのではないかと勘ぐられかねない。

兵藤特別秘書が紹介したとされる案件の中には、知事の長男の石原伸晃・元国交相に毎年数十万円以上献金しているうえ、時にパーティー券も購入している企業があった。石原伸晃事務所はこうした融資案件があったことなどについて、「ご指摘の事項については、承知していません」

と返答するが、李下に冠を正さずとは、まさにこのことだろう。

石原知事の元側近が言う。「中小企業を助けたい」という、きれいな気持ちで新銀行が始まったことは認めあげたい。でも、知事から「愛いヤツじゃ」と言われたら、かなりの役人がダメにつくり上げてしまった。政治がこんなにならなければ、環境が変わったり、方向が歪んだのなら、すぐに撤退する勇気が必要だったと思いますね。(東京都の各

種の) 制度融資で十分だったし、そのほうが都民のためになったはずですがね」

融資の厳格化も銀行の都合次第

都からの400億円追加出資を受けた新銀行は今後、経営スタイルを大きく変える。再建計画では、預金を20分の1の200億円、融資・保証額を3分の1の700億円、従業員は4分の1の120人と規模を大幅に縮小させ、11年度の赤字転換を目指すという。しか

し、最近の新銀行の「方針」について、ある企業の経営者はこう言う。

「いま追加融資を頼もうとすると、担保やら保証やら、やたらと厳しい。中小企業相手の金融機関は、返済実績を大きく評価し、徐々に条件が緩和されたり、融資枠が拡大されるものです。でもこの銀行は逆。銀行側の勝手な都合で「審査基準が厳しくなっていますから、前回と同じように融資とはいきません。ご存じのとおり、経営が大変ですから……」とヌケヌケと言うかう、呆れてしまいました」

手続きを経て、厳正な審査を実施しております。加えて……」(総合企画部)

8人に対しても、本誌は具体的な企業名を挙げて口利きの有無などを尋ねた。大塚、津島両氏は新銀行を通じて「紹介による」融資実績はない。「高井特別秘書は「銀行内部の資料に関することについては、コメントできません」と答えた。宏高議員、兵藤特別秘書、および鈴木、田中両都議にも再三取材を申し込んだが、回答は得られなかった。

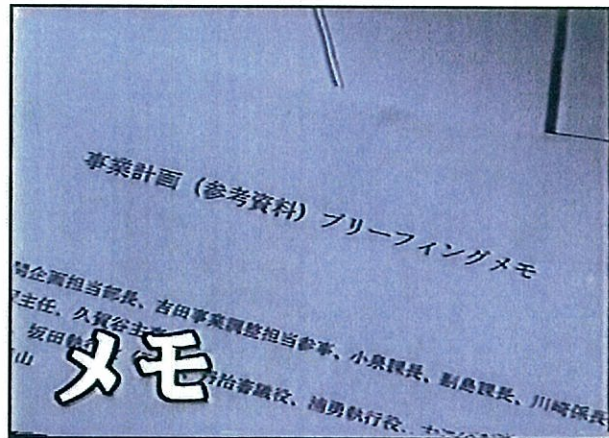
当の石原知事の答えはこ

さて、(口利き) 示した「口利き」案件について新銀行にただと、こんな答えが返ってきた。

「当行は商工会議所などの提携先や信用金庫をはじめとして様々な紹介をいただいております。その中には、都関係者からご紹介いただいたものもございます。当行においては、どこからのご紹介でありましたも、通常のお申し込みと同様の

一新銀行東京は現在、再建途上であり、都は、その着実な達成に向けて経営監視と支援を行っている。なお、銀行内部の事項についてはコメントいたしません」

この記事の冒頭の「議員の責任で(口利き) するのは当然」という発言は何だったのか。「口利き」案件一つ説明できないのなら、単なる責任逃れとしか言いようがない。 本誌取材班



【写真 1】



【写真 2】



【写真 3】



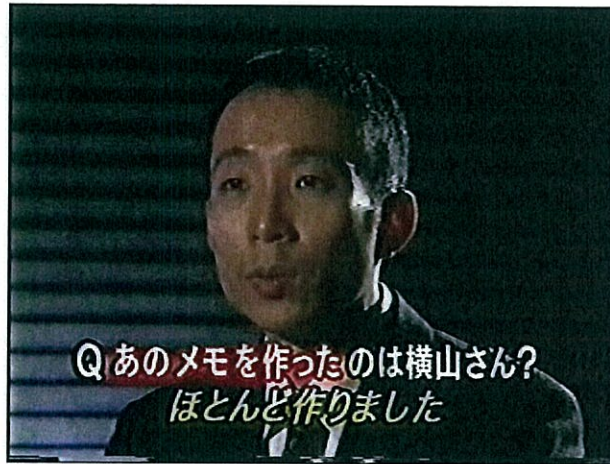
【写真 4】



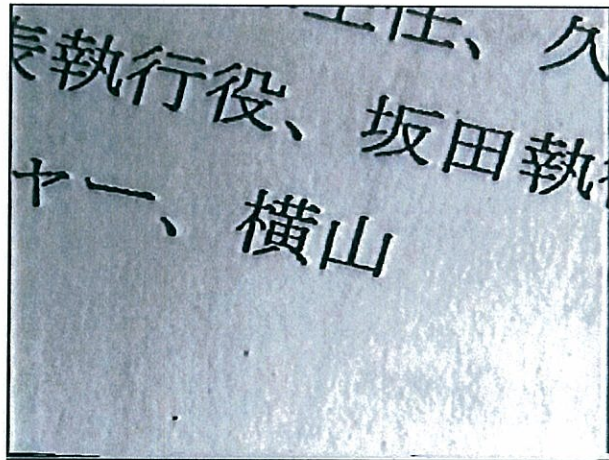
【写真 5】



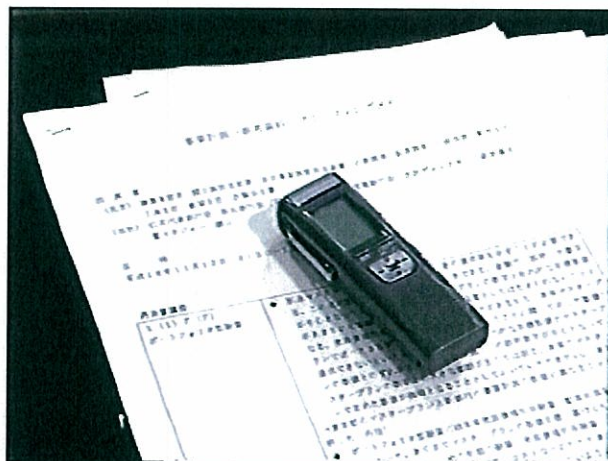
【写真 6】



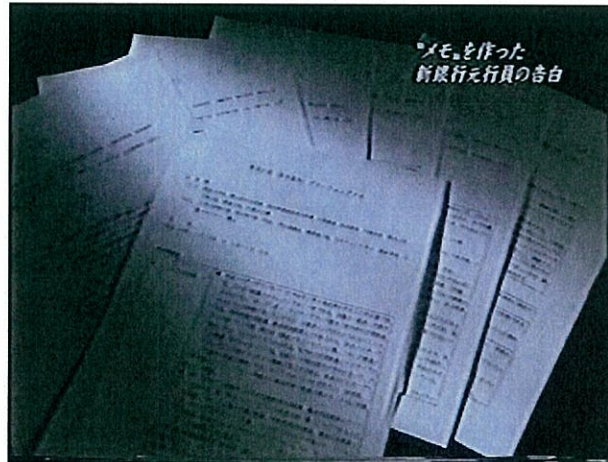
【写真7】



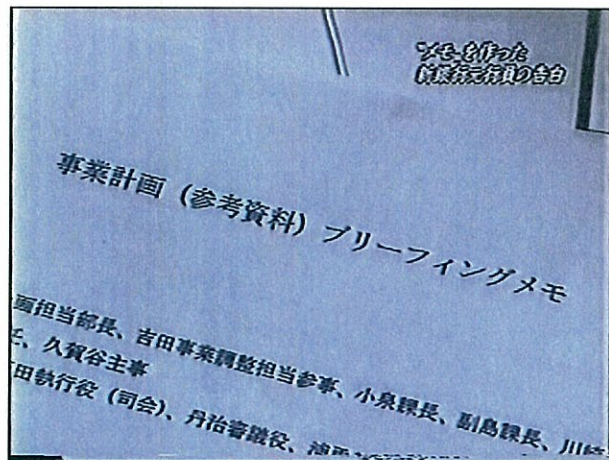
【写真8】



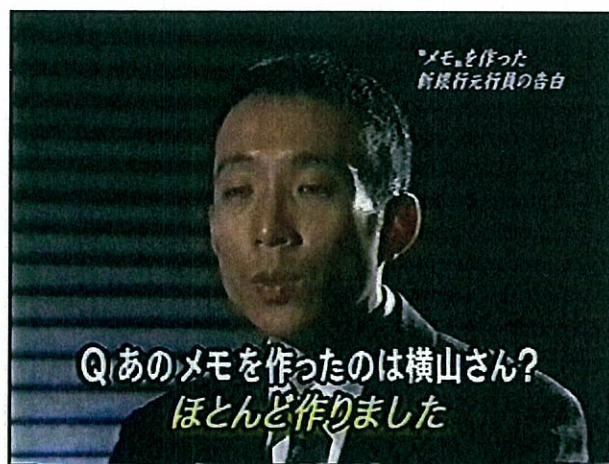
【写真9】



【写真 10】



【写真 11】



【写真 12】



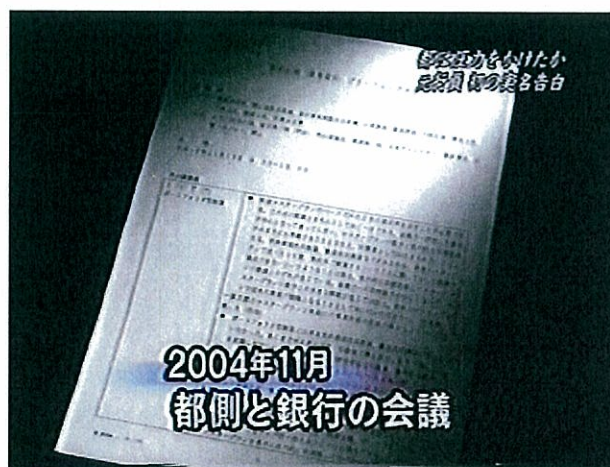
【写真 13】



【写真 14】



【写真 15】



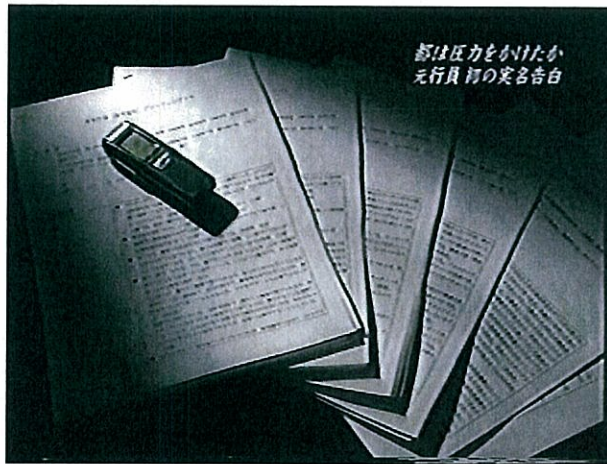
【写真 16】



【写真 17】



【写真 18】



【写真 19】



【写真 20】



【写真 21】



【写真 22】



【写真 23】



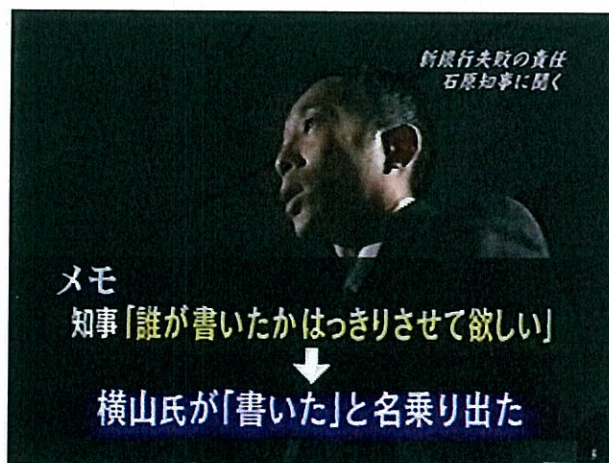
【写真 24】



【写真 25】



【写真 26】



【写真 27】

テレビ朝日「サンデープロジェクト」(平成20年6月8日放映)
録画(甲6号証の2)反訳

- (津島代表) 「これで累積ですね、1016億。」
(ナレーター) 損失1000億以上で危機に陥り、追加出資を認められた新銀行東京に、都が圧力をかけていたことを示すメモがあった。【写真1参照】
(石原知事) 「どんなメモで誰が書いたか出してもらいたい。」
(ナレーター) 圧力を否定する都に対し、メモを書いた元行員が実名証言。【写真2参照】
(横山氏) 「東京都の幹部の方が苛立ちながら、迫る。」【写真3参照】
(ナレーター) 都はどう応えるのか。元本部長を直撃。
(津島代表) 「そりゃ色々無責任な人はですね、言いますけれども。」
(須田氏) 「再建が出来なかった場合、どのように、この責任をとられる考えなのか?」
(石原知事) 「お答え出来ませんね。」
(ナレーター) 新銀行は何故失敗したのか。緊急追跡する。

テロップ【緊急追跡 新銀行はなぜ失敗したか～元行員の実名告発～】

- (アナウンサー) 「さあ、そして特集は累積損失が1016億円に拡大することが分かった新銀行東京です。須田さん、ポイントお願い致します。」
(須田氏) 「えー、新銀行東京は先週月曜日発表された決算で、累積損失がいっせんひゃく・・1016億円に膨らんでいることが分かりました。ポイントは2つあります。1つは鳴り物入りでスタートしたはずの新銀行は何故失敗したのか。これについてはですね、えー、この銀行に3年間勤めた元行員が実名で証言してくれました。で、この行員は、その総合企画部という経営中枢セクションにいたためにですね、実に様々な、資料や議事録などを持っていました。これはそのほんの一部ですが、【写真4参照】これを見るとですね、銀行内部で、新銀行内部で何があったのか、わかってきました。判明してきました¹。もう1つは、新たに400億円、これは都民の税金ですが、追加出資してですね、新銀行が本当に再建できるかどうか。これについても徹底検証してみました。」
(アナウンサー) 「特集、新銀行、元行員の实名告白。11時7分頃の放送です。是非ご覧下さい。」
(ナレーター) 先週、決算を発表した新銀行東京。
(津島代表) 「これで累積ですね、1016億。」

¹ 原告準備書面(1)2頁記載の本文書及び本件ICレコーダー提供行為(1(1))。

- (ナレーター) 損失 1000 億円以上で危機に陥り追加出資を認められた新銀行。
 (石原知事) 「400 億の追資を認めて頂かなかつたらこの会社潰れますよ。」
 (ナレーター) 繰り返された乱脈融資の実態。
 (融資先) 「噂はあったんじゃない、計画倒産だって。随分甘い銀行だなんて思った・・・」
 (ナレーター) 元行員がマスコミに初めて実名で証言。【写真 5 参照】
 (取材者) 「あのメモを作ったのが横山さんだと？」【写真 6 参照】
 (横山氏) 「そうですね。ほとんど作りしました。」【写真 7 参照】
 (ナレーター) 元行員が語る、都による圧力とは？【写真 8 参照】
 (横山氏) 「東京都の幹部の方が苛立ちながら、各執行役の方々に迫る。」
 (ナレーター) 圧力の事実を否定する都側。都は実態をどこまで知っていたのか。元本部長を直撃。
 (津島氏) 「そこにも上げないような、経営体質があったってことです。」
 (ナレーター) 新銀行は本当に再建できるのか。
 (専門家) 「この 400 億円があってもですね、もっとその傷口を広げる可能性すら心配されますね。」
 (須田氏) 「再建が出来なかった場合、どのように責任をとられる考えなのか。」
 (石原知事) 「お答え出来ないですね。」
 (ナレーター) 新銀行東京は何故失敗したのか。緊急追跡する。

テロップ【緊急追跡 新銀行はなぜ失敗したか～元行員の実名告発～】

- (アナウンサー) 「えー、特集は設立 3 年で危機に陥った新銀行東京です。」
 (アナウンサー) 「須田さん、今回のポイントは。」
 (須田氏) 「はい、えー、2 つあります。まず、新銀行は何故失敗したのか。この銀行に 3 年間勤めた元行員が、初めてカメラに向けて、銀行で何があったのか、豊富な資料を元にして【写真 9 参照】実名で証言してくれました²。もう 1 つは、都民の税金 400 億円を出資した新銀行は本当に再建できるかどうかについてです。」
 (アナウンサー) 「はい、VTR ご覧いただきます、こちらです。」

- (共産党吉田都議) 「あなたが会社の社長だったら、1000 億の大穴を作れば、即辞任。」
 (石原知事) 「最初から私が社長だったら、もっともっと大きな銀行にしました。」
 (ナレーター) 3 月、都議会は開業 3 年で 1000 億円以上の赤字を出した新銀行東京への追加出資で紛糾し、自民公明の賛成で 400 億円の出資を決めた。ここで、こんなやりとりがあった。
 (共産党曾根都議) 「これが、そのメモです。で、この記録を読むと、銀行に都の設定した

² 原告準備書面(1)2 頁記載の本文書及び本件 IC レコーダー提供行為 (1 (2))。

マスタープランを何が何でも守らせようという執念が手にとるようにわかります。」

(ナレーター) それは、開業半年前、都幹部が経営陣に計画の実行を迫ったとされる会議のメモで、それをもとに野党は詰め寄っていた。

(東京都佐藤産業労働局長)

「その資料自体がどういう資料の、こう、ものなのか、ですね。確認できないうえでお話っているのは、なかなかお答え、られません。」

(都議) 「知事答えて下さいよ！」

(委員長) 「佐藤産業労働局長。」

(ナレーター) メモについて石原知事は。

(石原知事) 「どんなメモで誰が書いたか、出してもらいたい。そうするとね、つまり、マスタープランを押し付けたのは都側の責任、取締役の責任に転嫁されるわけでしょ？実際、そんなのあるんだったら、出してもらいたい。」

(ナレーター) これが、石原知事が『誰が書いたかはっきりさせて欲しい』といったメモ。【写真 10、11 参照】その焦点となったメモを書いた人物が、我々に対し名乗り出た。

(取材者) 「ブリーフィングメモについてはご存知ですか？」

(横山氏) 「勿論、存じ上げております³。」

(取材者) 「あのメモを作ったのが、横山さんだと？」

(横山氏) 「そうですね、ほとんど作りました⁴。」【写真 12 参照】

(ナレーター) 横山剛氏は、新銀行の元行員。【写真 13 参照】元行員がメディアで実名告発するのは初めてだ。【写真 14 参照】

(取材者) 「何故ですね、実名で、えー、告発をされようと？」

(横山氏) 「なぜ、こういった官営の銀行をわざわざ作って、しかも短期間のうちに毀損したのかと。原因は開業前からあった。正しくあの、理解をして頂くと。」

(ナレーター) 新銀行東京に何があったのか。

(ナレーター) 新銀行構想は、5年前に知事が明らかにした。

(石原知事) 「日本の金融機関っていうのはね金融庁がコントロールしているから信用できないね。東京都プロパーの銀行をあるいくつかの企業と提携して作ってもいいと思っていますよ。」

(ナレーター) 当時、中小企業への貸し渋りが深刻となり、新銀行を公約に掲げた知事は圧勝で再選。

³ 原告準備書面(1)3 頁記載の発言内容①。

⁴ 原告準備書面(1)3 頁記載の発言内容②。

- (石原知事) 「今まで以上に、過激にやります。」
- (ナレーター) 翌年、マスタープランを発表。最大の目玉、中小企業への無担保無保証融資に加え、3年後に融資・保証残高 9300 億円、預金口座 100 万、ATM200 台という、地銀中位クラスを目指す拡大路線が謳われた。
- (石原知事) 「開業 3 年後には、総資産 1 兆 6000 億を目指すつもりでおります。」
- (ナレーター) 議会も、マスタープランを自・公・民が承認。都の税金 1000 億円の出資が決まり、新銀行東京は開業 1 年前に発足した。横山氏が新銀行に入ったのは、この年の 10 月だった。前は生命保険会社で国際金融を担当し、入行後は中枢の総合企画部に所属した。【写真 15 参照】同僚には金融機関のOBも多かったという。
- (横山氏) 「あの銀行は、素人集団でははっきりいってごさいません。もと長銀の出身者、日本興業銀行の出身者、知識も経験もあるはずであるし。」
- (ナレーター) 意欲がある者もいたが、そうでない者もあり、中はギクシャクしていたという。
- (横山氏) 「みんな意気に燃えて入っていたと思うんですけども、非常に殺伐としている。」
- (ナレーター) 開業半年前、横山氏は問題のメモが書かれた都側と銀行の会議に出席する【写真 16 参照】。都の代表は当時新銀行設立本部長の津島隆一氏。メモによれば、津島氏は経営陣にこう述べている。
“本来のマスタープランで定めた数値が機軸となることを、はっきりと再認識していただきたい。”
横山氏もこの発言を聞いたという。
- (横山氏) 「東京都の幹部の方が苛立ちながら、各執行役の方々に迫ると申しますかね、ある種プレッシャーと申しますか【写真 17 参照】、執行役の方々は苦勞しながら答弁していると思われるような部分もありました⁵。」
- (ナレーター) 別の会議では、録音テープも残っているが⁶【写真 18 参照】、津島氏はここではやや苛立っている印象だ。
- (IC レコーダー) “開業します、受け付けますと言って、えー、受け付けておいて、えー、回答は3ヵ月後ですよといったらば、それはもう爆発しますよ。”
“あとで色々次々とですね、対応ができないということになったときのえられる傷というのは大変な傷になるはずで、銀行の問題ですといわれたってですね、苦情は東京都にグッチャグッチャに来ますから。”
“そりゃそうだよ。”
“ええ。”

⁵ 原告準備書面(1)3 頁記載の発言内容③。

⁶ 原告準備書面(1)2 頁記載の本件 IC レコーダー提供行為 (2)。

- (ナレーター) これに対し銀行側は。
- (IC レコーダー) “議会その他に対して説明がつくのかっていうところも逆にあると思う。”
- “でもまあ我々の判断じゃなくて、あの、本部の方でどう考えられたかを聞きながら最終的には判断しなくちゃいけないもんですから。”【写真 19 参照】
- (ナレーター) メモなどを見ると、津島氏は都が作ったマスタープランの実行を銀行側に迫っていた。しかし。
- (佐藤産業労働局長)
- 「その資料自体がどういう資料の、ものなのかですね、確認ができない・・・」
- (ナレーター) メモの信憑性を認めない都側。実は、都がマスタープラン実行を迫ったあとに大問題が起きていたのだ。

テロップ【新銀行東京 拡大路線の陥穽 コンピューター審査】

- (ナレーター) 2005 年、新銀行は大手町の一等地に開業した。
- (石原知事) 「東京全体がですね、この銀行をバックアップしてこれから参りたいと思います。」
- (ナレーター) 新銀行はマスタープランで、無担保・無保証融資の際、企業の財務データをコンピューターに入力し、自動的に審査するコンピューター審査を行うことを謳った。トヨタ出身の仁司代表は言った。
- (仁司元代表) 「赤字でも債務超過でもご融資していますのでね。セーフティーネット的にですね、お使いいただけたらと。」
- (ナレーター) そのコンピューター頼みに反対する幹部もいた。金融機関出身の審査担当執行役だ。元執行役は我々にこう答えた。
- “企業の財務データには嘘が多いので、審査で経営者の信頼性や能力など数値に出ない点を評価するよう訴えました。”
- すると、執行役は担当を外され、他の部署へ異動させられたという。そして彼の危惧は的中する。
- 新銀行東京は開業まもなく、ある自動車販売業者に 3000 万円を融資した。しかし、月 250 万の返済は翌月から行われなかった。
- (近所の人) 「家賃も払っていないし、もう完全に傾いていた。」
- (近所の人) 「閉める前の日から随分それらしき人がこの辺に・・・」
- (取材者) 「いたのは暴力関係者の人達だった？」
- (近所の人) 「ええ。」
- (ナレーター) 業者は一度も返済しないまま、7 ヶ月後に失踪。新銀行が回収したのは口座に残ったおよそ 2 万円だけだった。さらに。
- (須田氏) 「新銀行のおよそ常識はずれの融資は、東京から 100 キロも離れた、こ

- こ宇都宮にもありました。」
- (ナレーター) 新銀行東京は一昨年、宇都宮の食肉会社に 5000 万円を融資した。支店が東京だけの新銀行として奇妙な融資だが、さらに問題があった。
- (同業者) 「噂はあったんだよ。」
- (須田氏) 「どういいますか？」
- (同業者) 「牛肉の偽装表示をしていると。」
- (須田氏) 「ああ。」
- (ナレーター) 実は融資の数ヶ月前から、この企業に農水省の検査が入り、6月に地元紙が一面でその企業の偽装表示を報じていた。そして新銀行東京が、この企業に 5000 万円を融資したのは 6 月 27 日、なんと新聞が偽装を報じた翌日だったのだ。県の食肉事業連は言う。
- (元事務局長) 「非常に迷惑だったですね、本当に。」
- (ナレーター) 一部業者のため、業界が被害を受けたという元事務局長は、呆れるように付け加えた。
- (元事務局長) 「出たと同時に、あ、これは経営的に苦しいな、というのは、すぐ、まあ、業界全部でそういうのは知れわたったんじゃないですかね。地元の銀行だったら融資は出来ないでしょうね。」
- (ナレーター) 後にその企業は 2 年前から偽装したことを認め、事実上の倒産、社長は失踪し、新銀行が融資した 5000 万円は 9 割が焦げ付いた。こうした結果、新銀行の融資先のうち、2345 社が経営破綻したことが判明、不良債権は 3 年で 285 億円となり不良債権比率は 12% を超えた。
- (駒沢大学齊藤正教授)
- 「際立って高いと思います。2%、3% っていうところだと思いますけどね、一般の銀行の場合はですね。それが 10% を超えるというのは、普通には考えられない。」
- (ナレーター) マスタープランを意識し、反対を押してコンピューター審査を導入し、拡大路線をとった新銀行。新銀行にマスタープランの実行を迫ったとされる津島本部長は去年、第 3 代の新銀行東京の代表に就任している。津島氏は、会見で責任を糾された。
- (質問者) 「東京都が、マスタープランとおりにやれというふうに指導していたわけですよ？それでその結果になって銀行が悪いっていうのは、ちょっと通らないんじゃないですか？」
- (津島代表) 「ちょっと、あれ、あの、認識が違いますね。ええ、1 年後に会社が、自らの判断で中期計画というものを作りまして、決してマスタープランの数字を踏襲してません。」
- (ナレーター) 中期経営目標は、開業 5 ヶ月後に新銀行が作り、マスタープランより融資残高目標などは 20% ほど下げられているが、口座数や審査方法などは全く同じだ。しかし、津島氏は中期目標は新銀行が作ったものだから、

- 責任はあくまで新銀行経営陣にあると主張しているのだ。さらに。
- (津島代表) 「都の、マスタープランに対しては、プレッシャーというものをかけられているという、そういう意識は自分もなかったとはっきり申し上げている。」
- (ナレーター) 銀行側はプレッシャーをかけられたとの認識はなかった、とっているという。これについて会議の場にいた横山氏は、【写真 20 参照】
- (横山氏) 「私は、その言葉は、にわかには信じることは出来ません。全く違うですね、数値を目標を掲げ執行役が動いていいという雰囲気があったのか、それはノー。」【写真 21 参照】
- (ナレーター) こうして拡大路線を進んだ新銀行東京で、ある動きが起こり始める。それは、新銀行の命運に暗い影を落すものだった。
- (横山氏) 「排除していく、という論理がですね、社内的にも動いたのではないかと。」

テロップ【新銀行東京 拡大路線の陥穽 有力者と口利き】

- (ナレーター) 新銀行東京の乱脈融資のひとつの背景といわれたのが口利きだ。開業直前、都の幹部が経営陣に口利きについてこう語っていた。
- (都の幹部) 「今自民とか公明の先生がですね、新銀行にいつくればみんな貸してくれるんだとこう言いまくっている。間違いなく、今。」
- (ナレーター) 元行員の横山氏もいう。
- (横山氏) 「件数ペースでは、あの、3ヶ月に10件程度はあった⁷と。某所から照会された案件が急に選挙の前後に増えだしたとか。」【写真 22 参照】
- (ナレーター) 新銀行が開業した年、7月に都議選、9月に総選挙が行われている。番組は、全都議に無記名アンケートを実施した。すると、自民党の7人、公明党の14人、民主党の4人が紹介や口利きを行ったことを認めた。また、自民党の4人は回答を拒否した。口利きについて知事はこう述べている。
- (石原知事) 「これは当たり前じゃないですかねー。議員ですからね。よしんばその議員さんが紹介した融資先がですね倒産してしまっても、それはね議員さんの責任じゃ全くないと思います、私は。」
- (ナレーター) こうして新銀行は初年度から209億円の赤字を出した。これは、大手銀行が中小企業への融資を強めたことも響いた。しかし、経営陣は拡大路線を変えようとしなかった。
- (質問者) 「修正はなし？」
- (仁司元代表) 「えっ？」
- (質問者) 「100万口座目標は？」

⁷ 原告準備書面(1)3頁記載の発言内容④。

(仁司元代表) 「落しません。」
(石原知事) 「間違っただことしてると思いませんし、まあ、もうちょっと長い目で見てもらいたいですな。」
(ナレーター) 新銀行は店舗を 10 ヶ所まで増やし、A T Mは地下鉄の駅を中心に 151 台設置した。また口座数を増やすため、大手行のおよそ 8 倍という破格の利息の定期貯金も始めたのだ。
そして、2 年目に、547 億円の赤字を出すと遂に銀行内で異変が起き始める。

テロップ【新銀行東京 拡大路線の陥穽 異変と豹変】

(ナレーター) 都内で年商 1 億、従業員 5 人の建設会社を経営する和田さんは、3 年前、新銀行から融資を受けた。
(和田純子社長 (仮名)) 「銀行もやっぱりお金を貸さない時期重なってましたので、銀行が銀行らしい仕事をしないので立ち上げるんだという言葉には、すっごく賛同したんですね。600 万通ったんですけども、利息を考えましてね、400 万の借入れをおこしました。」
(ナレーター) 金利は 7.5%、付き合いのあった銀行のおよそ 2 倍だったが、無担保・無保証に惹かれ新銀行に決めた。和田社長は毎月 13 万ほどの返済を 2 年間必死に続け、大半を返した去年、再び資金が必要となり新銀行に相談した。すると。
(和田社長) 「そのときは、売り上げも少々伸びてはいたんですけども、どういうわけか、却下されて、カードローンを紹介されたんですね。」
(ナレーター) 提示された金利は、倍の 14% だった。滞りなく返済してきたのに、同じ条件の融資は断られ、金利が 2 倍に跳ね上がったのだ。社長は融資を諦めた。
(和田社長) 「1 回で終わるっていうようなやりとりでは、銀行としての役割は果たせないんじゃないかな。」
(ナレーター) 何故こうなったのか。新銀行では、去年 6 月ようやく拡大路線から転換が始まり、融資縮小が図られたのだ。この頃新銀行では多くの行員が辞めていたのだ。横山氏はいう。
(横山氏) 「まっとうなことをまっとうにならしめようという者に対しては、排除していくという論理がですね、社内的にも動いたのではないかと。」
(ナレーター) 拡大路線に異を唱えた者、上に意見した者は外され、辞めていったという。横山氏も都の職員に意見した途端、仕事を奪われ、お茶入れや郵便配りが日課になったという。【写真 23 参照】そして去年 11 月、3 年勤めた銀行を辞めた。【写真 24 参照】
(横山氏) 「銀行におります時から、めまいがして倒れそうになったりとか、です

ね、悪夢を見る、寝汗をする。まあ、全てそのようなことが起こっております。」【写真 25、26 参照】

(取材者) 「辞めてった多くの人の気持ちは、どんな気持ちだったんですかねえ？」

(横山氏) 「・・・こんなはずじゃなかった。こんな改革の出来ない銀行だったはずじゃなかった。その言葉の一言だと思います。」

テロップ【新銀行東京 拡大路線の陥穽 決壊～都は知っていたか】

(ナレーター) 去年秋、危機が明らかになった新銀行は、マスタープランを作った中心人物津島氏が第3代代表に就任した。しかし、拡大路線のツケで、営業費は500億円に膨らみ、3年目、累積損失は1000億円を超え、都の出資金の8割を失った。勿論、すべて都民の税金だ。

では、この実態を都はどこまで知っていたのか。都は新銀行の取締役にもOBを常に派遣し、都の金融部長らが毎月新銀行に行き、報告を受けてきた。新銀行元執行役はいう。

“役人達は、新銀行がおかしいと腹の中で気づいていました。でも、下手にダメな銀行に関わると役人人生がヤバくなると思ったのでしよう。”

“私が問題点を伝えても、役人達は聞こうとしませんでした”

(ナレーター) 都は経営実態を知っていたのか。津島代表に取材を申し込んだが応じられないというので、直撃した。

(津島代表) 「取締役会ですらですね、わからないところがあったわけで、えー、東京都のような外の立場の、株主という立場ではですね、さらに限界があったと思いますね。」

(須田氏) 「取締役会が知らないから、東京都も知らなかった、という？」

(津島代表) 「いやいや。つまり、知らなかったからじゃなくて、そこにも上げないような経営体質があった、ということですよ。」

(須田氏) 「元行員の方やなんかに取材しますと、知っていたはずだと、みなさんおっしゃるんですけども。」

(津島代表) 「そりゃ、色々、無責任な人はですね、言いますが、どこまで知ってるか知ってないかっていうのはですね、それはあの一、知ってたはずだというのは、その方は、そこで聞いているわけじゃないんですから。」

(ナレーター) そして今年3月、自公の与党が400億円の追加出資容認に動くと、世論は一気に降下した。

(都民) 「絶対反対です。えー、だって、我々の税金ですもの。そんなところにね、使われたくないよね。」

(ナレーター) 逆風を意識したのか、強気一辺倒だった石原知事は、採決前日謝罪した。

(石原知事) 「都民の皆様に対し、心配をおかけしていることは大変申し訳なく、改

- めて深くお詫びを申し上げます。」
- (ナレーター) しかし、追加出資決定後は、石原節が復活。
- (石原知事) 「例の銀行の問題で、非常に東京は苦勞しました。苦勞させられています。民間の方に任せた結果、こんなになっちゃった。」
- (ナレーター) では、新たに税金 400 億円を投入する新銀行は、本当に再建できるのか。
- (ナレーター) 4 月末、建設会社の和田社長は、久々に新銀行を訪れた。400 億円の投入が決まり、一度断念した融資が受けられるかもしれないと思ったからだ。
- 【和田社長の録音テープ】**
- (和田社長) 「支払いに向けての融資をと思ひましてね。」
- (銀行員) 「かなり状況が変わっておりまして、担保か、」
- (和田社長) 「ええ。」
- (銀行員) 「保証協会の、」
- (和田社長) 「うん。」
- (銀行員) 「保証付きでないと・・・。」
- (和田社長) 「というと、今までの銀行と変わらないと？」
- (銀行員) 「そうなってしまいますが、まあ、もう新聞報道でご存知だと、東京都議会で 400 億の追加出資の承認していただいた時に、“じゃあもうそういうのは止めなさい”、と。」
- (ナレーター) 出てきた和田社長は、融資は諦めたと言った。
- (和田社長) 「今までのメリットが何もなし、じゃあ保証協会の枠があるんだったら、今までつきあっている銀行に行きますよね。もう自分とこを守るためっていう状態がもう見え見えで。」
- (ナレーター) 今年、新銀行は再建計画を出した。それは店舗を 1 つに減らし、人員も減らし、貸出金は 5 分の 1 に、預金額も 20 分の 1 に減らすもの。中小企業への無担保・無保証融資は原則廃止し、中小企業融資を大きく縮小するという。また、4 月、都は金融監理室をつくり、新銀行への監視と支援をすると発表。我々はそこに 4 月下旬、話を聞いた。
- (取材者) 「具体的にはどういう？」
- (金融監理室目黒克昭室長)
- 「具体的には、まあこれからあー、まー、あの検討していくということにはなりますけれども。」
- (取材者) 「これまでと変えられますかね？」
- (目黒室長) 「本質的なものが変わるということではありませんけれども、まあ可能な限り、まあ私共の最大限の努力は払っていくと。」
- (ナレーター) この再建計画を、専門家はどう評価するのか。
- (斉藤教授) 「預金が 200 億円、貸出目標が 400 億円というですね、そこまでその

目標を落したですね、銀行を残す必要性は、全くないんじゃないかという。で、しかも店舗が1つですね。はっきり申し上げてですね、都自身がですね、この再建プランでもってやっていけるなんていうには思っていないと思いますね。」

(ナレーター) 中小企業の間でも、こんな声が出ている。

(東京中小企業家同友会板橋和彦政策部長)

「決算書の中に、新銀行東京からの融資残があると、印象が悪い、なんてことおっしゃる方もいらっしゃるんですよ。だから今となってはネガティブなブランドイメージみたいなものが、もうついているのかもしれない、という気がするんですよ。」

(ナレーター) この事態を招いた責任は誰にあるのか。石原知事は、初代代表の仁司氏ら、旧経営陣に責任があると主張する。

(石原知事) 「この銀行はね、その旧経営陣によってね、ちょっとまあ、なんていうかな、常識からはずれた運営がなされたんですね、途中の報告が粉飾されましたな。」

(ナレーター) 一方、かつて大蔵省で銀行の不良債権処理の枠組みを作り、今年財務省を退職した高橋氏はこういう。

(東洋大学高橋洋一教授)

「こういう計画を組んだ人、それとあとあと計画を具体的に制度設計した人でしょうね。」

(須田氏) 「そうすると、その辺で最終的な責任者というのは石原都知事だということになりますか？」

(高橋教授) 「石原都知事の責任を否定できる人はいないんじゃないですか。一番最初に考えた人ですし、具体的な制度設計したときにゴーのサインを出した人じゃないですか。」

(ナレーター) 石原知事は自らの責任をどう考えるのか。我々は取材を申し込んだが応じられないということだったので、会見でぶつめた。

(質問者) 「知事は“どんなメモなのか誰が書いたのか出してもらいたい”とおっしゃってますけども。」

(ナレーター) まず、知事が“誰が書いたものかはっきりさせてほしい”といったメモについては、我々の取材で本人が名乗り出ているが、それについてはどうなのか。【写真 27 参照】

(質問者) 「これがそのメモなんですけども、作成した元行員が我々の取材に応じて実名での取材を受けまして、マスタープランを実行を迫られたことに対してプレッシャーを感じた、という風に述べているんですけれども。」

(石原知事) 「マスタープランは、マスタープランでしかないんでね。それをいかにね、運用するか、そして利益を上げるか、ということが私はあのね、経営者の責任だと思います。能力だと思います。それをね、マスタープラ

ンというものを楯にですね、自分の責任を回避するというのは、私はやっぱり、あの自分の限界を露呈していると思うし。」

(ナレーター)

では、自らの責任についてはどうなのか。

(質問者)

「まあマスタープランを作成する中心でもあり、なおかつ最大の出資者である東京都の最高責任者である石原さん。」

(石原知事)

「それはちょっと違いますね。私はね、銀行業務については素人ですからね。提案してね思いついたことでね。提案したそのものは是非っていうのは、やっぱりね、都の中で討論しました。そして次の段階です。有識者を集めてですね、その可能性を論議してもらってですね、かつまたその上ですよ、マスタープランが出来てきたわけですからね。専門家に委任したこと自身は、責任があるのかもしれませんがね、じゃあ一体何のための専門性をもって討議が行われているかということ、あなただって頭で考えてわかることじゃないですか。」

(ナレーター)

実は400億円で生きのびた新銀行だが、1年後、再び危機が襲う恐れがある。追加出資の付帯決議で、『都は400億円を毀損しないよう監視に努める』とあるためだ。そのためには、新銀行は来年3月期の赤字を173億円以内に抑えなければならないが、達成の見通しは全く不明なのだ。追加出資では知事を支持した与党・公明党は、我々の質問に、“400億円が毀損されれば知事は辞任すべきだ”と答えた都議が22人中13人に上っており、毀損すれば石原知事が再び窮地に追い込まれる可能性も指摘されている。知事は、400億円が毀損された場合、どう責任をとるのか、会見で聞いた。

(須田氏)

「この400億円のですね、毀損された場合ですね、つまり再建ができなかった場合、えー、石原都知事としてどのように、こう責任を取られる考えなのか？現時点でお答えできる範囲で結構なので・・・。」

(石原知事)

「それお答えできないですね。つまり、出来ないかもしれないという想定をね、私どっかにふまえて物事は出来ませんよ。付帯決議に反しないよう努めることが、まず当面の責任だと思います。そのためにね、今までやらなかったですね、営業というものをしないとですね。ただ小零細企業にですね、お金を貸すだけじゃ、日本の金融事情からして、とてもじゃないけど銀行もつわけがない話です。やっぱりそれを踏まえてですね、これから再建に努めます。私の当面の責任はもう、それだけだと思います。」

(アナウンサー)

「新銀行はどうしてここまで拡大路線とったんでしょう？」

(須田氏)

「はい。あの発案者である石原知事、まあ絶対権力者なんですが、だったわけで、マスタープラン通りにやると問題がある、えー、しかも無理にやると大変なことになると誰も知事に諫言出来なかったんじゃない

かなあとと思いますね。しかもマスタープランを作ったまあ、中心人物の津島氏、この人が最高責任者であるんですが、この人を再建をリードしなくてはならない第3代表にもってきた、これについてもとても都民の理解は得られないと思いますねー。」

(田原氏) 「なんで石原さんに言えなかったんですか？」

(須田氏) 「はい、やっぱりまあ、権力者である石原さんが、やるんだー、てことを決めたためにですね、要するにその東京都の方もそれに唯々諾々と従わざるをえなかったんじゃないかと思いますよね。」

(アナウンサー) 「そして400億円の追加出資ということなんですけれども、再建は可能なんですか？」

(須田氏) 「えー、あの、ただですね、新銀行、融資はとにかく縮小して行って、こんな再建プランも出していますが、これで再建ができると考えるほうが無理でしょうね。ええ、先月金融庁が検査に入りましたが、金融庁の考えとしてはですね、とにかく預金者を保護して破綻を回避してですね、どっかに引き取ってもらう、というところだと思いますね。ただ、やっぱり追加出資の責任については、知事と議会にはとにかく責任があると思いますね。」

(アナウンサー) 「あの、かつての長銀のように、その、外資に売却されるなんて可能性もあるんでしょうか？」

(須田氏) 「ええ、その可能性は高いと思いますね。」

(アナウンサー) 「そうなんですか。」

(須田氏) 「ええ、ただ1400億円はどぶに捨てられたと思います。」

以上